

指摘し合い共に成長する『3Sの会』 生産効率 20%向上、品質・安全性も大幅改善 業界全体で職場環境の改善を目指す

地域社会のインフラを守るために、災害に強いプレキャストコンクリート製品とマンホールの開発・製造を行う小河原セメント工業株式会社（本社：茨城県水戸市、代表取締役：小河原 隆次）は、製造工場や業界の職場環境の改善を目的とした「整理、整頓、清掃」の頭文字を取った3S活動に取り組んでいます。

2012年には、コンクリート業界全体で環境改善を推進すべく、「3Sの会」を発足。現在では、北海道から沖縄まで全国の同業13社が参加する業界横断的な取り組みへと発展しました。本活動では、年2回、持ち回りで工場を視察し、互いに改善点を指摘し合うことで、職場環境の向上を図っています。

この継続的な取り組みにより、作業現場の清潔化・安全性の向上・生産性の改善が実現。当社では、一人あたりの生産量が20%向上し、業務効率の大幅な改善につながっています。

このニュースレターでは「3Sの会」の発足の経緯から、導入前の課題、指摘を受けて実施した改善策、そしてその成果についてご紹介します。



<3Sの会とは>

労働環境の向上と効率的な生産体制の確立を目指し、2012年にコンクリート事業をおこなう同業各社が協力して「3Sの会」を発足しました。この会の目的は、各社の工場を視察し、率直に改善点を指摘し合いながら知見を共有し、業界全体のレベルアップを図ることです。活動を重ねる中で会員数は徐々に増加し、現在では製造工場を持つセメント会社13社が参加しています。各社が互いに工場を視察することで、自社では気づけない課題を発見できることが「3Sの会」の大きなメリットとなっています。

「汚れてもいい場所」が当たり前だった工場

3S活動を導入する前、当社のコンクリート製造工場では、日々の作業や工場内の環境が「当たり前」となり、問題があっても見過ごされがちで、どこをどのように改善すればよいのか分からない状態でした。

作業スペースの確保や整理・整頓が十分に行き届かず、工具や資材の管理が属人的で一貫性がないため、作業の効率が低下。また、工場内の衛生意識も低く、清潔な環境づくりが徹底されていませんでした。一部では「工場は汚れても仕方がない場所」という認識が根付いており、作業員は長靴に履き替えて業務にあたるのが日常化していました。こうした課題の存在には気づいていたものの、それをどのように改善すればよいのか具体的な方法が分からず、長年にわたって抜本的な対策が講じられないままでした。

「3Sの会」で指摘された課題、見落としていたことが明確に

「3Sの会」が発足して以来、2013年、2022年の2度にわたり、当社の工場視察が実施されました。

視察の結果、道具が散乱し整理整頓が不十分であること、工具の収納方法に統一感がなく探すのに時間がかかること

などが指摘されました。また、工場内の動線が確保されておらず、人が通る場所に物が置かれているため、怪我のリスクが高く、作業員がスムーズに動けないという課題も浮き彫りになりました。

さらに、「3Sの会」では各企業が互いの工場を視察し合う仕組みとなっており、当社の代表取締役と工場長、職長なども視察委員として他の企業の工場を訪問しました。他社の取り組みを学ぶ中で、当社の工場では熱中症対策が十分に講じられていないことも明らかになりました。こうした指摘や学びを活かし、当社では職場環境の改善に向けた具体的な取り組みを進めることとなりました。

指摘を受けたことは社内で会議をし、対策を施しました。特に新たに導入した4つの対策は、社内環境の改善につながった取り組みとなっています。

対策① 工具の「形跡管理」を導入

工場内の整理整頓を徹底するため、工具の「形跡管理」を導入しました。工具ごとに定位置を設定し、誰でも直感的に「何がどこにあるか」が分かる仕組みを構築。具体的には、工具を収納するボードや棚に形を描いたシルエットやラベルを貼り、使った後は必ず元の位置に戻すルールを徹底。これにより、「どこに置くべきかわからない」「使った人が戻さない」という課題が解消され、探す時間の削減だけでなく、紛失リスクの低減にもつながりました。また、新しい作業員でもすぐに工具の配置を把握できるため、教育の効率化にもつながっています。



対策② 安全通路の確保と視認性向上

工場内の動線を明確にするため、また、作業員が安全かつスムーズに移動できる環境づくりに取り組みました。従来は、作業エリアと通路の区別が曖昧で、通路に工具や資材が置かれることが日常化し、移動が妨げられるだけでなく、転倒などのリスクもありました。そこで、視認性を向上させるために通路の明確化を実施。床面に色分けを施し、作業エリアと通路を視覚的に区別することで、どこが通路でどこが作業スペースなのかが一目で分かるようにしました。また、「ここには物を置いてはいけない」というルールを明確にし、定期的な点検を行い、徹底的に整理整頓しました。



対策③ 熱中症対策の強化

夏場の高温環境における作業員の負担を軽減するため、熱中症対策を強化しました。工場内の作業は長時間にわたることが多く、特に高温多湿の環境下では熱中症のリスクが一層高まります。作業員の安全と健康を守るため、スポットクーラーを設置し、温度を下げる環境を整備しました。また、気温 35℃以上の日には作業員全員に飲料を配布し、こまめな水分補給を促す仕組みを導入。加えて作業服にも工夫を凝らし、全員にジャケット等に取り付ける電動ファンを支給。これにより、体感温度の低下に伴い作業効率の維持にも貢献しています。



対策④ 社内の「3S活動」開始

外部だけではなく、社内全体で継続的に改善をしていく仕組みとして、「3S活動」を強化しました。これまでは、業務が日々のルーチンワークになり、改善点に気づきにくい環境でした。しかし、「3Sの会」を通して、定期的に工場を見直し、問題点を洗い出すことが、持続的な職場環境の向上を図る重要なことだと思い、2ヶ月に1回、グループごとに分かれ、自分たちで改善箇所を洗い出し、改善活動などを行っています。こうした相互チェックを通じて、「常に改善を意識する文化」が根付きつつあります。3S活動を習慣化することで、より安全で快適な職場環境の実現を目指します。

生産効率 20%向上の成果、苦情件数の軽減やコスト削減にも

こうした取り組みの結果、当社では明確な数値として確認できるほどの成果が見られました。

生産効率に関しては、2012年比で20%向上し、よりスムーズな製造プロセスを実現しました。また、製品不良に関する苦情件数も半減。品質管理の向上が明確な成果として表れています。さらに、作業環境の改善により、転倒や落下事故が減少し、安全性の向上にもつながりました。加えて、不必要な在庫や資材を見直し、適切な管理を徹底したことで、コストの削減にも成功しました。

また、社内での3S活動を継続的に実施することで、作業員の意識にも変化が見られました。整理整頓の習慣が根付き、以前は、「工場は汚れても仕方がない場所」という認識だったため、長靴を履き替えて作業するのが当たり前の環境が一変しました。現在では清潔な環境が維持され、革靴で工場内に立ち入れるほどです。その点では、3Sの会の会員の方も驚いています。快適な職場づくりが実現し、作業効率や労働環境の向上にもつながっています。

このように、業績面だけでなく、職場環境の変化という目に見える形でも確かな成果が表れています。「3Sの会」を通じた業界全体の改善が、当社の成長にも大きく貢献していることを実感しています。今後も継続的な改善を図り、より良い職場環境の構築を目指していきます。

【会社概要】

会社名 : 小河原セメント工業株式会社

所在地 : 茨城県水戸市笠原町 1783-1

代表者 : 代表取締役 小河原 隆次

設立 : 1942年

事業内容 : プレキャストコンクリート製造販売及びマンホール更生工事

企業 HP : <http://www.ogawara-c-i.co.jp/>



本件に関する報道関係者お問い合わせ先

小河原セメント工業株式会社

TEL : 029-292-2618 MAIL : isaka@ogawara-c-i.co.jp

広報担当 : 井坂 (090-2438-1346)